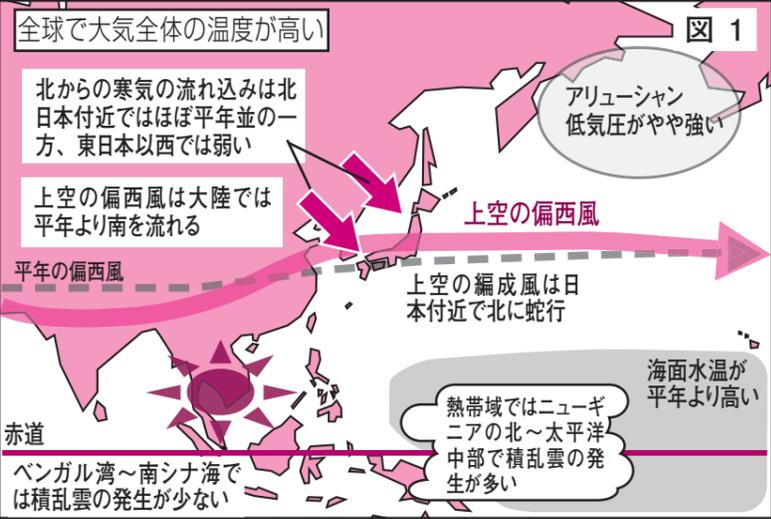


環境と健康



この夏は各地で猛暑が続く、7月23日に

夏は命に関わる危険な暑さ 冬は暖かく降雪量少ない見込み

た気温と、今の若者が

「今の若者は昔より夏もエアコンなしで過ごしたもんだー」などの言葉を聞く事があります。昔の若者が体験した気温と、今の若者が



	猛暑日	熱帯夜
約40年前	1974-1978年 (5年平均) 0 (0.0)	30 (6.0)
近年	2014-2018年 (5年平均) 56 (11.2)	171 (34.2)
今年	2018年 28	45

さて、次に今年の冬の見通しですが、エルニニョ現象が秋には発生している可能性が高い

としています。エルニニョ現象が発生すると、

最高気温が35℃を超えた猛暑日は、今の若者が1年に平均10日以上経験するのに対して、昔は経験がなく、最低気温が25℃以上の熱帯夜は今の若者が2日に1日の割合で、昔の若者は夏の間に数日程度となつています。中

体験している気温を比較してみましよう。気象庁ホームページのデータダウンロードから広島県の気温を取得し、7月と8月の猛暑日と熱帯夜の日数を最近の5年間の若者の頃として約40年前の5年間を比較したものが(表1)です。

「広島地方気象台 予報官 石津均」

環境と健康のポスター・標語コンクール 小・中学生から3万7千点の応募

当協会と公衛協が実施する「環境と健康のポスター・標語コンクール事業」は11年目を迎えました。今年も、23公衛協の協力を得て、小学校214校、中学校61校から、昨年度より約3,000点多い、37,322点の応募がありました。



ポスター作品を選考する委員

9月に各公衛協で実施した1次選考で696点が選ばれ、当協会では10月15日に開催した「平成30年度環境と健康のポスター・標語コンクール選考委員会」で優



標語作品を選考する委員

秀作品110点(ポスター51点・標語59点)が選ばれました。選考会では、10人の選考委員が、芸術性、個性などの視点で厳正に選考を行いました。

入選作品は11月16日に東広島市の黒瀬生涯学習センターで開催する第59回広島県公衆衛生大会で展示し、入賞者には賞状、トロフィー、副賞が贈呈されます。また、公衛協行事での掲示、広報への掲載、クリアファイルやボールペンなどの啓発グッズに活用されます。

きんせんか 琴線歌

「事業」と言っても、人の少ない地域には経営上の理由から展開していません。フィットネスジムの場合も同じです。そうした地域の方々はジムに行きたくても近場になく、通う場合は遠方となり負担が大きくなります。▼それなら、その場所に向きジムを設置すれば良いのではと考えたのが「キャラバンフィットネス」です。広島県環境保健協会が行っている出張型ジム事業「キャラバンフィットネス」は、広島が発祥の地です。そこで行われているのが「有酸素と筋力運動を30秒毎に交互に移動して行くサーキット運動」です。中高齢者にも負担が少なく、短時間で劇的な効果があり、気分が爽やかなる運動です。有酸素運動で心肺機能が良くなり、体力が付き、筋力運動で筋肉や関節の衰えを防ぎ、

運動する機会を届ける

「運動する機会を届ける」とは、このような運動をする事で健康寿命の延伸、介護予防、地域活性化にも貢献できます。▼県民の健康づくりの場を積極的に提供したいと想う共感者が必要です。このようなプログラムがますます増え、広島県民の幸せと健康に役立つことを切に望んでおります。

「キャラバンフィットネス」考案者 J・アライ



一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~ 広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

基本理念 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。



1万人の食チェック事業報告

3千784枚のカードが集まる

「愛情の1品」摂取増加

◆今年度の1万人の食チェック事業◆

摂取した食品を記録したカードは、昨年度より282枚増の3千784枚提出されました。今回は記録の分析結果を報告します。

この事業は、①全県で実践率50%、②主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている人の割合を70%以上(以下、「バランスのよい食事」とする。)の2つの目標を掲げて実施しています。

目標実践率50%を達成した公衛協は、全26

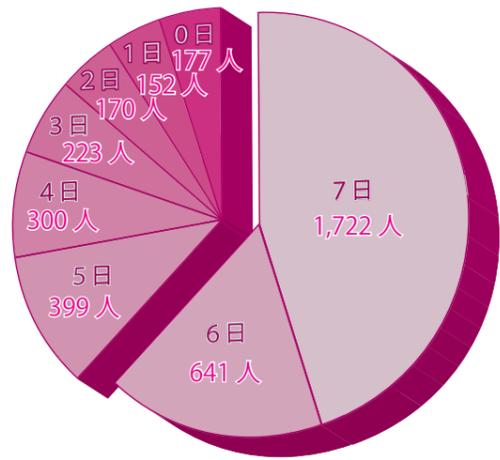
●1万人の食チェック事業実践率一覧● (最終結果)

No.	公衛協名	全委員数	実践者数	実践率	No.	公衛協名	全委員数	実践者数	実践率
1	府中町	90人	56人	62.2%	14	安芸太田町	48人	27人	56.3%
2	海田町	90人	41人	45.6%	15	北広島町	405人	120人	29.6%
3	熊野町	32人	25人	78.1%	16	安芸高田市	256人	39人	15.2%
4	坂町	23人	23人	100%	17	東広島市	1,024人	397人	38.8%
5	江田島市	161人	95人	59.0%	18	三原市	380人	90人	23.7%
6	竹原市	86人	73人	84.9%	19	世羅町	336人	37人	11.0%
7	大崎上島町	48人	40人	83.3%	20	尾道市	354人	100人	28.2%
8	大竹市	71人	40人	56.3%	21	福山市	1,220人	764人	62.6%
9	廿日市市	307人	210人	68.4%	22	府中市	681人	108人	15.9%
10	廿日市市大野	662人	355人	53.6%	23	神石高原町	30人	0人	0%
11	廿日市市佐伯	23人	15人	65.2%	24	三次市	450人	95人	21.1%
12	廿日市市吉和	23人	0人	0%	25	庄原市	340人	172人	50.6%
13	廿日市市宮島	44人	0人	0%	26	呉市	1,890人	862人	45.6%
		合計					9,074人	3,784人	41.7%

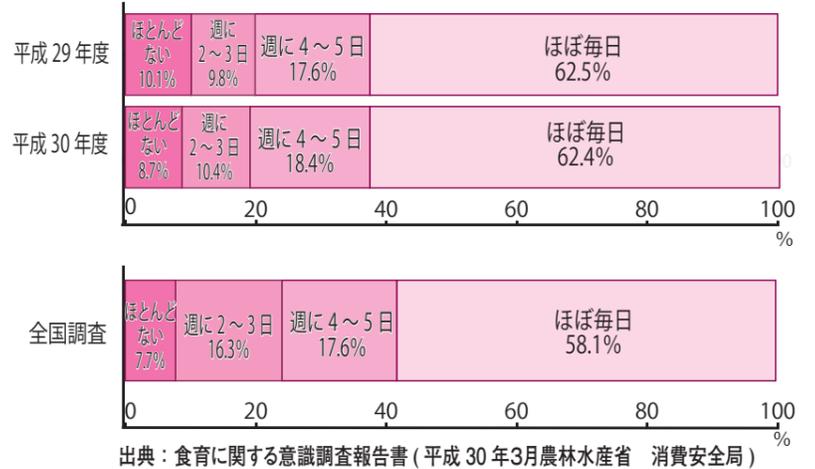
公衛協中13公衛協で、昨年度の11公衛協から2公衛協増加し、全県の実践率は41.7%で昨年度の実践率38.3%と比較すると3.4ポイント上回りました。

バランスのよい食事を取っている人の割合は62.4%で、昨年度より0.1ポイント減少しました。ただし、平成29年度広島県民健康意識調査の60.0%や、全国調査の58.1%よりも高く、推進委員の皆さんはバランスの取れた食事を摂取しておられ、健康に対する意識が高いと言えます。

●バランスのよい食事を取った日数とその人数(今年度の結果)



●バランスのよい食事を取った日数とその人数(昨年度の結果及び全国との比較)



海そうは、陸上の植物からは得にくい海の栄養をたっぷりと含んでいます。

◆その他◆
「愛情の1品」を毎日取る人が増加

昨年度、2割程度の方が牛乳・乳製品や果物をほとんど食べていませんでしたので、「愛情の1品」として毎日の摂取をお勧めしました。今年度、牛乳・乳製品を毎日摂取している人は2千104人(55.6%)、果物は1千643人(43.4%)で、ほとんど食べない(週に0~1日)と回答した人が牛乳・乳製品は376人(9.9%)、果物は536人(14.2%)で、昨年度と比較すると毎日食べる人が増えました。アレルギーや乳糖不耐症などもあるので100%は無理ですが、毎日摂取する人の割合が増えるといいと思います。過食は禁物ですので適量を摂取するようにしましょう。



今回の調査結果から得られた情報を皆さんに知っていただき、食生活への関心を高めていただきたいと思います。日ごろから食生活に目を向けて健康長寿を目指しましょう。

◆主食◆
夕食の欠食が目立つ
週に1回以上主食を欠食したと回答した人は朝食436人、昼食568人、夕食1千075人となっており、飲酒との関連は今回の調査では不明ですが、夕食で控えている人の割合が高いという結果でした。

◆主菜◆
肉を食べる頻度が高い傾向
肉を毎日食べる人は1千415人(37.4%)、魚は734人(19.4%)で、肉を食べる頻度が高い傾向が前年度に引き続き伺えました。もう少し魚を意識して食べるようにしましょう。

◆副菜◆
野菜を食べない日がある人1割弱
野菜を毎日食べる人は3千415人(90.2%)で、そのうち、「毎

食」野菜を食べている人は765人(20.2%)で5人に1人でした。一方、1割弱の人が野菜を食べない日があるという結果で、野菜不足が懸念されます。

野菜の摂取は、ビタミン・ミネラルなどの不足しがちな栄養素を補い、循環器疾患や糖尿病などの予防に効果的に働くと考えられています。

◆「野菜」を食べた人数(日数別)◆
このグラフは、野菜を食べた人数を日数別に示しています。ほとんどの人が毎日野菜を食べ、その数は約3,500人に達しています。

◆「牛乳・乳製品」を食べた人数(日数別)◆
このグラフは、牛乳・乳製品を食べた人数を日数別に示しています。ほとんどの人が毎日牛乳・乳製品を食べ、その数は約2,000人に達しています。

◆「果物」を食べた人数(日数別)◆
このグラフは、果物を食べた人数を日数別に示しています。ほとんどの人が毎日果物を食べ、その数は約1,500人に達しています。

朝食を1日以上欠食された方は257人いらっしゃいましたが、朝食の欠食は、肥満や高血圧などのリスクを

肉も魚もタンパク質の重要な供給源です。

野菜を毎日食べる人は3千415人(90.2%)で、そのうち、「毎

食」野菜を食べている人は765人(20.2%)で5人に1人でした。一方、1割弱の人が野菜を食べない日があるという結果で、野菜不足が懸念されます。

野菜の摂取は、ビタミン・ミネラルなどの不足しがちな栄養素を補い、循環器疾患や糖尿病などの予防に効果的に働くと考えられています。

◆「野菜」を食べた人数(日数別)◆
このグラフは、野菜を食べた人数を日数別に示しています。ほとんどの人が毎日野菜を食べ、その数は約3,500人に達しています。

◆「牛乳・乳製品」を食べた人数(日数別)◆
このグラフは、牛乳・乳製品を食べた人数を日数別に示しています。ほとんどの人が毎日牛乳・乳製品を食べ、その数は約2,000人に達しています。

◆「果物」を食べた人数(日数別)◆
このグラフは、果物を食べた人数を日数別に示しています。ほとんどの人が毎日果物を食べ、その数は約1,500人に達しています。

無駄なく快適に冬を過ごすために

『暖房』のCOOL CHOICE



未来のために、いま選ぼう。

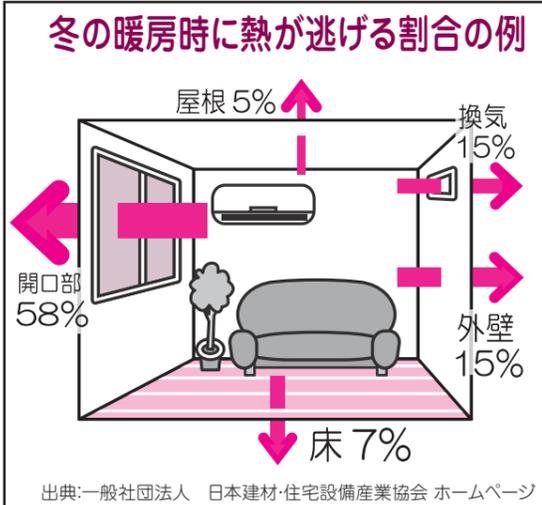
私たちは毎日の暮らしで大気中にCO2(二酸化炭素)を排出し、

大気中のCO2濃度の上昇により地球が温暖化しています。地球温暖化を防ぐためには、私たち一人ひとりが問題意識を持って省エネを実践することが大切です。環境省は、「未来のために、今選ぼう」と国民運動として「COOL CHOICE(ク

ールチョイス)を呼びかけています。COOL CHOICEは「賢い選択」と訳し、国民一人ひとりが日々の生活の中で環境に配慮したモノ・コトを選ぶことで、CO2排出量を削減することを目指しています。そこで、冬の家庭の

暖房をキーワードに、COOL CHOICE事例を紹介します。暖房器具を上手に利用することで、無駄なく快適に生活することができ、CO2排出量を削減するのを見てもみましょう。

エアコン、ガス・石油ファンヒーター



冬の間、エアコン、ファンヒーターは、部屋全体を温められる暖房器具です。まず、温めた空気がどこから逃げるのかを知りましょう。右図のとおり、窓や壁、床などから逃げていきます。特に窓からの放熱が大きいので、遮熱シートやカーテンなどを利用し窓から熱が逃げにくくする工夫を行なうと快適な生活と省エネにつながります。

電気カーペット、電気こたつ、床暖房

カーペットは、人のいない部分のスイッチを切ることができる機能を持つものもあります。積極的に活用しましょう。また、上半身をあたためることは不向きです。カーディガンなどを一枚多めに着ましょう。あたたかい新素材の下着や靴下なども効果があります。ストーブやエアコンなど、他の暖房機器と併用する場合は、温度設定を控えるようにしましょう。床暖房のある部屋にベッドを置く場合は、ベッドの下に物を置かないようにしましょう。

中国四国ブロック・地球温暖化防止活動推進員合同研修会 維新ぜよ!中国・四国地域の温暖化防止活動 事例発表・グループワークでスキルアップ

中国四国ブロックの地球温暖化防止活動推進員と地球温暖化防止活動推進センター職員



グループワークに取り組む参加者

が計70人参加し、9月6日・7日、高知市のことう男女共同参画センター「ソール」で合同研修会を開催しました。今回は、「維新ぜよ!中国・四国地域の温暖

化防止活動」をテーマに、自分になりたい推進員像に近づくためのステップを明確にし「行政」「学校」「企業」「地域」などのニーズに

応える活動について、事例発表やグループワー

クなどを通じて学び合いました。

はじめの講演は、島根県地球温暖化防止活動推進センター副センター長長 渡辺 崇司さんが「地球はこれからどうなるの?」と地球環境問題を解決するためのヒントを探ると題して、節制や我慢と結びついた啓発活動を刷新し、電力消費が少なく寿命が長い製品を利用する、家は断熱性が高いほど健康に良いなどの情報を皆で共有し、温暖化対策は生活の質を高める活動であることを広めようと呼び掛けました。

事例発表では、広島県の信濃晋介さんが病院や福祉施設の電気使用量を削減するサービ

スで対価を得るESSC事業と省エネを結び

つけた事例を、次いで、山口県の今村主税さんが「フードバンク山口」の事例を、最後に、高知県の宮地竜好さんが「紙すき体験学習」の事例を紹介しました。

その後、各自の得意技を活かした活動に対象者のニーズに合わせて企画書を作成し、12のグループに分かれて企画書の実施に向けた課題の解決策を話し合いました。グループ討議を受けて修正した企画書は、参加者全員で楽しさや実現可能性、継続性などの観点で投票し、「四国の海の中を見てみよう」が最多得票、「災害に対する適応策」被災地での活動の中でクールチョイス!」が次点となりました。

（地域活動支援センター）

エアコン、ガス・石油ファンヒーターのCOOL CHOICE例

タイマーを上手に使う 室温は20℃を目安に! 必要なときだけ利用

外出や就寝の15分前にスイッチオフ 厚手のカーテンを使用して窓からの熱の出入りを防ぐ

買い替えの際は省エネ製品を選ぶ 適度な湿度を保つ

私たちの日々の生活の中で省エネにつながる選択肢は無数にあります。今一度、生活の中の無駄の点検を行なってみませんか。また、TEAMMATEひろしまは電気使用量で省エネを見える化する「光熱費節約大作戦!」に取り組んでいます。皆さまのご参加をお待ちしております。

エアコン、ファンヒーターは、部屋全体を温められる暖房器具です。まず、温めた空気がどこから逃げるのかを知りましょう。右図のとおり、窓や壁、床などから逃げていきます。特に窓からの放熱が大きいので、遮熱シートやカーテンなどを利用し窓から熱が逃げにくくする工夫を行なうと快適な生活と省エネにつながります。

電気カーペット、電気こたつ、床暖房(部分)

カーペットは、人のいない部分のスイッチを切ることができる機能を持つものもあります。積極的に活用しましょう。また、上半身をあたためることは不向きです。カーディガンなどを一枚多めに着ましょう。あたたかい新素材の下着や靴下なども効果があります。ストーブやエアコンなど、他の暖房機器と併用する場合は、温度設定を控えるようにしましょう。床暖房のある部屋にベッドを置く場合は、ベッドの下に物を置かないようにしましょう。

床暖房の場合はカーペットやラグを使わない

タイマーを上手に使い切り忘れ防止

遮熱シートで床から熱が逃げるのを防ぐ



協働で豊かなまちづくり 公衛協の役割を再認識

【福山市公衛協】

④1 役割と活動の共有

10月2日に市民参画センターで、福山市公衛協理事研修会が開催されました。研修会は、学習と交流を通じて、各学区が取り組んでいる活動を共有し、活発な取り組みにつなげることをねらいとし、理事60人が参加しました。

園尾会長は、今年度の募金は8月時点で昨年実績を上回ったこと、ポスター標語コンクールでは、標語の参加学校が増え、作品数が126%上昇と活動が広がっていることなどにふれ、「お互いに活動

を知り、活性化につなげていくため、活発に交流しましょう。」とあいさつされました。プログラムは、2部構成で、前半に「近年の気象災害と気象変動について」と題して、福山市環境総務課清水課長が講演されました。7月豪雨災害の福山市の被害にふれながら、気候が変わってきていることや、「緩和」だけでなく、被害を回避・軽減する「適応」の取り組みも必要になっていることを振り返りました。また、福山市地球温暖化対策実行計画の進捗についても触れ

協力と連携を呼びかけられました。後半は、「まちづくり推進委員会における公衆衛生推進委員会の役割」と題して協働のまちづくりの始まりと制度について説明された後、3つの学区公衛協のうまいくつない・進みつつある・うまくいっている事例が報告されました。参加した理事からは、事例や対策の引き出しを増やすこと、他団体との上手な連携模索が必要、活動をとおりて委員の意識を高める必要があるなどの感想が発表され、これからの公衛協活動がどうあるべきかを考えるきっかけの場となりました。他の組織との協働、推進委員の意識づくりは多くの公衛協でも課題となっています。公衛協が地域の環境と健康をまもり、まちづくりの翼を担い、地域活性化につながっているといわれる組織であるようにこのような研修会や交流会が活発に開催されることを願います。



研修の目的を説明する園尾会長(上)、学区の活動事例を発表する大和委員(下)



「友・遊 ボウリングセット」を体験する参加者(上)、バーを引くとピンが起き上がる(下)

運動機能を確認するミニゲーム 運動の習慣化をねらいに

【府中市公衛連】

④0 寄贈品の活用状況

協会創立60周年の感謝事業では、各市町公衛協が実践活動で使う備品を寄贈しました。今回はその中から府中市公衆衛生推進委員会連合会(以下、府中市公衛連)の活用事例を報告いたします。

府中市公衛連には、「友・遊 ボウリングセット」を届けました。少し離れたところからボールを投げ、倒れたピンの数を競うボウリングのルールを利用したレクリエーションツールです。ねらう・力を調整するという動作が伴うため、リハビリや運動機能の確認などで活用することも可能です。子どもからお年寄りまで楽しむことができます。

10月13日・14日、府中市文化センターで「市民健康&福祉まつり2018」が開催されました。今年度で31回目を迎えるこの事業は、

府中市、府中市社会福祉協議会、府中市公衛連が主催して実施しています。府中市公衛連では、軽運動コーナーを出展し、この度の寄贈品の「ボウリング」と「健康豆とり」「スカットボール」「ナンバーストライク」の体のコントロールが要求されるミニゲーム4種類を準備し、体験したゲームをポイント化して運動習慣の呼びかけを行いました。

運動の習慣化をねらいに自身の運動機能を確認するミニゲームは老若男女問わず参加者に大好評でした。継続して地域の健康づくりにお役立てください。(地域活動支援センター)

環境協の環境生活センター ⑨ 環境調査課

私たちがいつも使用している蛇口のの水は、どのように届けられているのでしょうか。

浄水場でつくられた水は、水道管から直接蛇口に送られる場合と、一旦、受水槽と呼ばれる貯水槽(タンク)に貯められ、ポンプで各家庭の蛇口まで送られる場合の2通りあります。

水道水を貯めている受水槽のうち、有効容量が10m³を超える施設を簡易専用水道といい、直接届けることのできない高層のマンションやビル、多くの人が利用する学校や店舗等、多くの施設に設置されています。

簡易専用水道は、水道法で1年に一回、貯水槽の清掃と厚生労働省の登録検査機関による法定検査を受けることが定められています。この法定検査を簡易専用水道検査といいます。当会は、登録検査機関とし

て簡易専用水道検査を実施しています。検査は、衛生上問題なく管理されているかどうかを第三者の目で厳しく見ることが求められています。水槽内部に異常な浮遊物質が侵入していないか、または貯水槽本体に生じた亀裂によって雨水等が浸入していないか等、多くの項目をチェックします。また、水質汚染の原因になるものを探るだけではなく、貯水槽の劣化具合等も確認し、維持管理に役立てていただけるよう助言を行っています。私たち簡易専用水道の検査員は、水は人が生活していく上でとても重要なライフラインであることを常に考



簡易専用水道検査を行う検査員

え、安心して安全な水が受水槽から各蛇口まで届けられるよう、検査に取り組んでいます。(環境調査課)

検査と維持管理を助言 毎年清掃や法定検査が必要



短時間で正確な検査へ ICカードを利用したシステムを導入

みなさんは街中でレントゲン車などの健診車両を見かけたことがありますか。健康クリニックでは協会施設での人間ドックや健康診断だけでなく、健診車両で事業所等に出向く巡回健診も実施しています。

健康診断を受診される方は、健診機関に何を期待しているのでしょうか。親切丁寧な対応や正確な検査はもちろん、検査の待ち時間が短く、正確な検査結果をできるだけ早くご提供できることが、もっとも重要で不可欠なことだと私たちは考えます。そこで、健診の精度向上を目指して、巡回健診にICカードを利用した健康診断（カード健診）のシステムを導入しました。

カード健診では、まず受付スタッフが受診される方の個人情報や検査項目などをICカードに登録します。そのICカードを持って検査を受診していただくと、検査データは検査機器から直接ICカードに登録されます。すべての検査データが登録されたことをデータ回収スタッフが確認して健診は終了となります。

以前は健診スタッフが紙の受診票に検査データ等を記入してチェックしていましたが、ICカードを利用することでデータが直接登録され、転記作業が不要となり、健診の終了確認もスムーズにおこなうことができるようになりました。カード健診は健診スタッフのストレス軽減にもつながっています。カード

に記録された個人情報は暗号化されており、万が一カードの紛失があっても漏えいのおそれはありません。

カード健診の実施を拡大し、正確な健診結果をより早くお届けすることで、皆さまの健康づくりのお役に立てるようこれからも努力してまいります。



身長体重計に接続されたタブレットとICカードと読取装置

(健康科学センター巡回健診課)

専門知識やノウハウをカタチに

生きものの好きへの書籍を作成

当協会では、これまでの歴史の中で培った専門知識や情報、ノウハウなどをカタチにしていこうと、環境や健康づくり、まちづくりに役立つ物品の販売を展開してまいります。

第1弾として、「誰かに言わずにはいられない 広島身の近な生きもの意外な生態」と題した、一般の方に読みやすい書籍を作成します。内容は、過去の情報

紙「環境と健康」第484号（平成13年9月発行）〜第562号（平成24年2月発行）で、身近な生きものや町のシンボル、外来種、田んぼや海の生き物をテーマにしたシリーズ記事「意外な野外のガイダンス」をまとめたものです。

書籍にするにあたり、生きもの好きの方や子どもに知識を自慢したい大人を主な対象として掲載した当時の記

事を再構成しました。総ページ数は112ページで、四六版（B6版よりやや大きい）の2色刷りとなっております。

価格は千円程度で、11月下旬には、県内の書店で購入できる予定です。どうぞ、ご期待ください。

(事業連携室)



連載記事で取り上げたことのあるトノサマガエル(右上)、ミツバチ(左上)、赤とんぼ(下)

普段利用による備えが大切

共助用井戸水の約500件を検査

平成30年7月豪雨の災害では、広島県内のいたるところで甚大な災害が発生しました。多くの水道施設が被害を受け、広範囲にわたる断水が発生しました。

当会は、広島県と「災害時の遊休井戸等共助利用に係る水質検査に関する協定」を締結しています。これに基づ



き、県の依頼を受け災害直後から、市町の共助用井戸水491件の検査を無償で実施しました。

水道法では、飲料水として利用するための51項目の水質基準項目が定められています。ただし、今回の井戸水検査では、災害時の緊急対応として、井戸水の定期的な検査項目のうちどうしても実施すべき項目とされている、一般細菌や大腸菌などを含む11項目の検査を行いました。

検査結果で、一般細菌や大腸菌が基準に適合していない場合は、煮沸して飲用することが必要です。しかし、それ以外の項目が適合していない場合は、煮沸しても飲用には適しません。

ただし、適さない項目によっては、生活用水として利用できませんので、トイレの水を

流す、土砂などで汚れた部分を流すなどの利用が可能です。今回の井戸水検査では、濁りや臭いがあるために飲用としては利用出来ない割合が6割を超えていました。この因としては、普段利

用していない井戸水であったことが考えられます。井戸水は、普段から



多くの試料の前処理をする職員(上) / 専用の機器により分析を実施(左)

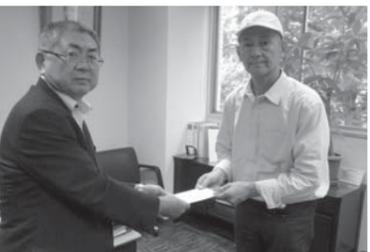
使用することで、本来の水質を維持することができず、使われない状態が長いと、水が滞って利用に適さない状況になってしまふ場合があるのです。日常的に散水などに使用し、いざというときに利用できるようにしておくことが大切です。

起きてほしくない災害ですが、発生を想定した日頃からの備えが大切です。その中に井戸水の有効利用を検討していただければと思います。

(水道事業課)

災害見舞金を受贈

平成30年7月豪雨による災害において、当協会の関係する全国のJ-サーキット(フットネスタジアム)の有志の方々、(財)宮城県予防医学協会、(株)産労総合研究所をはじめとし、多くのお見舞いを受贈いたしました。この紙面を借りて、皆さまの心遣いに感謝し、厚くお礼申し上げます。



このお見舞金は、今後、公衛協活動を通じて災害支援に役立ててまいります。

J-サーキット(株)J-アライ代表取締役(右)より、佐藤理事長がお見舞金を受贈しました。

「公衛協だより」の発行へ

広報・ツールづくりコース 参加者募集

公衛協活動への「理解・積極的な参画」を促すためPRは欠かせません。紙媒体の広報はもろろん、昨年度に引き続き、インターネット(フェイスブック)を使った広報を学ぶ講座を開催いたします。

- ①チラシや団体通信 (だより) 作成編【西部会場】
開催日時：H30.12.3(月) 10:30～16:00
開催場所：公衆衛生会館 (広島市中区広瀬北町9-1)
- ②チラシや団体通信 (だより) 作成編【東部会場】
開催日時：H30.12.10(月) 10:30～16:00
開催場所：東部支所 (福山市山手町5-32-26)
- ③Face book 記者 養成編【広島会場のみ】
開催日時：H31.2.10(日) 10:30～15:30
開催場所：公衆衛生会館 (広島市中区広瀬北町9-1)

これまでに受講した公衛協やTEAMでは、公衛協だよりや会誌などの定期的な活動報告を発行する際、より見やすいチラシ作成につながるなど、うれしい成果の報告もいただいています。この機会に広報力強化に取り組みませんか。

詳細・申し込みは市町の公衛協事務局へお問い合わせ下さい。いずれも定員30人(1団体3人まで)、参加費無料。公衛協から申し込みの場合は、こちらで旅費を負担します。

公衆衛生会館の耐震工事が完成



昨年の12月から工事を実施していましたが、本館(公衆衛生会館)の耐震工事が完了し、10月15日に引き渡されました。



当日は、佐藤理事長をはじめ、施工にあたった大林組の秀高広島支店長、大旗連合建設設計の大旗代表取締役とともにセレモニー(右写真)が行われました。

工事中は、来館の度に不便をおかけしましたが、新しくなった会館をこれからも愛顧ください。

うちエコ診断の受診者増加へ

広島県内の診断士が17人に

うちエコ診断士は、環境省認定の公的資格で、地球温暖化問題、省エネ機器、家庭の省エネ対策の知識を持った専門家です。環境省の「うちエコ診断ソフト」を活用し、各家庭の光熱費やCO2排出量を「見える化」し、各家庭の住まい方に合わせた適切な提案を行います。

広島県では、広島県地球温暖化防止地域計画の達成に向け、平成29年度から平成32年度にかけて、うちエコ診断事業を展開することとしています。これを受け、当会は、うちエコ診断資格試験の受験支援を行っています。平成30年度は新たに5人のうちエコ診断士が誕生し、広島県のうちエコ診断実施機関に登録しているうちエコ診断士は17人になりました。

そこで、うちエコ診断を受診しようと思われたときの流れを紹介いたします。

①専用の申込書に必要事項を記入し、当会に申込んでください。

②ご家庭の家族構成や光熱費などの情報を提出していただきます。

③うちエコ診断士による対面の診断を行います。

うちエコ診断実施(予定)

- 11/10 庄原市リサイクルフェスタ
- 11/10 見て!来て!クールチョイス(三原市)
- 11/11 コイ・こいフェスティバル・イン・おおたけ
- 11/11 人・まち・ふくしまルシェ2018(福山市)
- 11/17 イオンモール広島府中エコイベント
- 11/18 同上
- 11/18 フェスティバル江田島2018
- 11/25 とぎめきフェスティバル(廿日市市大野町)
- 1月予定 よがんすの祭り(竹原市)
- 2月予定 福山市リサイクルフェスタ
- 2月予定 緑の仲間フェスタ(府中町)
- 3/17 脱温暖化プロジェクトせらイベント

④診断結果に沿ってご家庭に合った対策に取り組んでください。

⑤3カ月後、家庭で取り組んだ対策にチェックをつけて、返送してください。

11月以降、うちエコ診断を実施する予定が決まっているイベントは左表です。ご家庭の省エネに関心のある方は受診してみてください。

平成30年度 地区衛生組織活動資金募集



通称 『環境・健康募金』

環境・健康募金は、昭和35(1960)年から実施し、平成30年度で59回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金 総額(円)
44,914,653

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	1,265,960	75.9
海田町	1,990,000	82.4
熊野町	1,429,288	99.1
坂町	0	0.0
江田島市	1,795,050	98.1
竹原市	0	0.0
大崎上島町	0	0.0
大竹市	2,434,316	96.5
廿日市市	2,986,439	87.9
廿日市市大野	2,560,002	102.2
廿日市市佐伯	0	0.0
廿日市市吉和	42,300	74.6
廿日市市宮島	189,400	98.1
安芸太田町	712,400	96.5

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
北広島町	823,200	75.9
安芸高田市	555,300	26.9
東広島市	4,153,495	97.3
三原市	1,298,456	77.2
世羅町	417,300	48.6
尾道市	3,458,550	77.7
福山市	8,391,882	96.6
府中市	1,078,360	98.9
神石高原町	0	0.0
三次市	1,945,953	81.4
庄原市	0	0.0
呉市	7,325,691	96.5
その他	61,311	89.6
合計	44,914,653	79.4

募金の使途(公衛協配分金)

- 環境づくり
- ・ごみの減量化と分別排出の徹底・リサイクル活動の推進
 - ・道路、河川など生活空間の美化活動
 - ・脱温暖化に向けたライフスタイルの推進
 - ・みちクリーン・散乱ごみの追放運動
 - ・脱温暖化普及啓発活動



水辺教室 (北広島町公衆衛生推進協議会)



脱温暖化出前学習 (福山市樹徳学区公衆衛生推進委員会)

※この表は、平成30年9月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。